

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 市丸 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を下回っている。 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、正答率が高い。 「話すこと・聞くこと」領域については、正答率が高い。
	よくできた問題	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題。
	努力が必要な問題	目的に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を下回っている。 どの問題に対しても回答している。無回答率は0%である。 筋道立てて考え、その過程について順を追って回答していく問題に課題がある。
	よくできた問題	「台形」について理解できているかどうかを問う問題。正答率100%であった。
	努力が必要な問題	示された除法の式の意味を理解しているかどうかを問う問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析	
<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べていると回答した子どもが100%であった。「朝ごはん」は、6年生全員に定着していると言える。 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている子どもが100%であった。6年生全員、国語科学習の意義が分かっていると言える。 「人の役に立つ人間になりたいと思う。」と回答した子どもがかなりいた。今後も、道徳科や特別活動等で子どもに意識させていく。 「将来の夢や目標をもっている」と回答した子どももかなりいた。今後もキャリア教育等を推進していく。 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりの学習時間について、60分以上と回答した子どもの割合は、昨年度と比較し増えたものの、半分程度の子でもあった。学年の発達の段階に応じた学習時間を家でも行うよう、子どもにも家庭にも地域にも啓発を続ける。 「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」で肯定的な回答をした子どもの割合が多い。学校と家庭、地域の連携があつての数値と考える。 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。」で肯定的な回答をした子どもが100%であった。今後も体験的活動を充実させる。 「新聞を読んでいますか。」について肯定的な回答をした子どもが少なかった。NIE実践指定校としての取組を継続していく。 	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的学習内容の定着に向けて、朝の学習時間を活用するとともに、家庭学習の課題の出し方を工夫する。 漢字の習得、語彙の拡充、四則演算の定着などを意識した、家庭学習の課題を出す。 4年生以上全児童参加の「放課後いちまる学習塾」を保護者の理解と協力を得て、今後も計画的効率的に継続する。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 「早ね・早起き・朝ごはん」について、学校だより、保健だより、PTA理事会等を通じて、今後も啓発を続ける。 歯磨き習慣については、関係機関の協力を得て集中的に取り組む(3年生・5年生)。 NIE実践指定校であることを改めて保護者等にも周知し、新聞に関心をもってもらう。高学年の子どもには学校で新聞を読ませる。
